

令和4年度公益社団法人鹿児島県栄養士会事業報告

世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症は、令和4年度も終息の見えない不安感の継続でした。しかしながらこの間、高度の通信機器を会館に整備することで、リモートでの学びや情報収集、意見交換など、平常に近い活動を維持することができるようになりました。

令和3年度からスタートしたリレー研修会は、外部講師の招聘、認定管理栄養士のレクチャー、他医療職との連携、患者との交流など、多くの方のご協力をいただきながら、延べ10回1,660人の参加で継続しました。とくに専門性を持った会員による実践的学びのレクチャーは、それぞれの会員のこれからの繋がるものになったと思います。さらに近い将来、医療・福祉に限らずすべての栄養介入に求められる『NCPを理解しPES報告に繋げる』を毎回の研修会に組み込み、いつ改定されても鹿児島県栄養士会会員は十分に対応できると言えるよう、学びを重ねてきました。離島を数多く有する鹿児島県では郷土で活躍する会員にとって、こうした通信機器の活用は必須です。以前より奄美・種子島の一部は連携していましたが、どこにいても同じ時間に同じ学びを手に入れられることはとても価値のあることで、さらにこれからの拡大していくものと考えます。このリレー研修会は日本栄養士会生涯教育と繋がっており、各種認定管理栄養士取得を目指す会員には有用な講座となっています。

令和3年度中止となった奄美市を中心とした県民公開講座も、令和4年度ハイブリッド形式で開催することができました。栄養士会の県民公開講座は“県内万遍なく”をモットーとしており、離島での開催を念願としておりました。今回参加218人と予想以上の参加者を数え、鹿児島大学大石教授のウイットに富んだご講演に地元の皆様も満足していただけたと考えております。

しかしながら コロナ禍のため社会活動事業「管理栄養士によるクッキング講座(HPへレシピ掲載)」「スポーツ栄養セミナー(オンラインで開催:延べ150人)」「小児糖尿病サマーキャンプ(中止)」「たるみず元気プロジェクト(前半中止50人参加)」「市民健康まつり(測定のみ・個別相談中止30名参加)」など十分に実施できなかった事業もあり、次年度へ希望を繋ぐこととしました。一方多くの活火山を持つ鹿児島県にとって、JDA-DATの活動は、いかなる場合も求められる可能性があります。隊員も79人となり、県総合防災訓練や桜島火山爆発防災訓練など積極的に参加しました。今後は県内各地域に拠点を設け、連携できる体制を構築していく必要があると考えています。

県民の栄養(食)からの健康管理の窓口として継続してきた「栄養110番」は、コロナ禍で相談件数はやや低下気味ではありましたが、他医療団体と連携することで多方面への関わり合いが拡大していくものと思われまます。鹿児島市の「すこやか長寿健康支援(栄養改善)事業(延べ40名)」「鹿児島市介護予防地域ケア会議(延べ12名)」派遣しましたが、今後も継続していきます。